

県立ろう学校は移転があるのか
魔の交差点（上諏訪地区）をどうするか

神近議員

(1) 「新幹線を活かしたまちづくり懇話会」はろう学校移転も視野に入れた土地活用を提言した。その後の検討経過は、

移転となった場合、大学等誘致の考えは？

(2) 長年指摘がある久原池田線内の変則交差点の危険性は早急に解消すべき。

副市長 (1) ろう学校は県の施設であるため、現段階では市の判断ができない状況である。また、県は今ところ移転するということを待ち合わせていないということである。

あついで、そのまわりのまちにしていくなか、そういった中で、ろう学校の移転が必要かどうか、移転が必要とすれば、その跡地をどう活用していくかということ、これから議論していかなければならないと思っている。

市長 (1) 新幹線新駅予定地は1万5千㎡、県立ろう学校は3万5千㎡という広大な土地である。県と話し合わなければいけ

ないと思うが、私としては新幹線駅周辺の整備のひとつの目玉になるのではないかと考えている。

直近にあるまとまった土地を従来どおり県立ろう学校で置いておくというのは、中長期的に見て惜しいように思う。移転となった場合の活用方法については、選択肢が幾つかあるかと思うが、研究学園都市については非常に関心を持っている。特に技術のまちを目指している大村市にとっては、アジアに向けての、仮称アジア技術大学といううなもの、一つの選択肢になるのではないかとと思う。しかし、ほかにも幾つかの選択肢が出てくる可能性もある。いずれにしても年内に県とは協議を進めていきたいと考えている。

都市整備部長 (2) 大村警察と協議を重ね、県警本部からも再度現地で検討していただいたが、適当な改善策が見つかからない状況である。また、信号制御についても交通状況を踏

まね検討していただいたが、現在の交通状況では円滑な交通を妨げてしまつたため困難であるとの回答であった。久原池田線開通後の交通量を調査して、今後とも継続して大村警察署と協議を重ねていきたいと考えている。

市長 (2) 本頭に頭痛い問題である。私自身も協議に入る覚悟でいる。解決策を見出すために最大限の努力をしたい。

(その他の質問事項)
・衆院選結果の評価と展望
・コミュニケーション局と早期に防災協定の締結を
・同報系防災行政無線の整備を急ぐべし
・障がい者移動支援事業の見直しは慎重に
・生活保護法運用に際しての基本的態度を問う



久原池田線上諏訪地区の変則交差点

女性がん検診率の向上で
早期発見、早期治療の取り組みの充実を！
女性が子育てしながら働ける社会をめざそう！

三田村議員

(1) 無料クーポンを使った女性特有がん検診の受診率アップ取り組みについて
子宮がん検診、乳がん検診の対象者が受診しやすい医療体制についてどのような対策がなされているのか。

大村市の乳がん検診の受診率は県内でも非常に低いのに、なぜクーポンによる検診者の受診率の目標を50%にしているのか？是非100%を目指し、受診率を上げてほしい！

平成21年度乳がん子宮

福祉保健部長 (1) 医師会と市民病院の協力により、月に1回、日曜日に休日の女性特有のがん検診を実施する体制を整えるとともに、実施医療機関のリストを作成して市民に送付するなどしている。

福祉保健部長 (1) 100%が理想ではあるが、国が50%を目指していることや、大村市のこれまでの受診の動向などからまず50%に設定した。

がん検診受診率の目標数値と、その根拠は。

(2) 病児病後児保育事業について
病児病後児の保育における利用件数や体制などの現状はどうなっているのか。

一日平均利用率が低いことが問題か示してほしい。また、保育施設において自主事業として実施されているところがあるが母親の声はどの程度調査されているのか？
病児病後児保育における今後の市の取り組みについて示してほしい。

福祉保健部長 (1) クーポン利用者を50%として、過去の実績とを合わせて乳がん検診受診者2,959名約36%、子宮がん検診受診者3,060名約32%と見込んでいる。

福祉保健部長 (2) 現在、市内の小児科医院1カ所の協力で実施しているが、平成20年度で延べ395名が利用した。市内の私立の保育園では2カ所において平成19年度から自

園の児童を対象にした自主事業として実施されている。

福祉保健部長 (2) 利用率

については、利用時間が多少不便なところがあるかもしれないし、家族で対応している方もいるかもしれない。今後、利用啓発を図るとともに、調査をしてニーズにあったものに内容を検討していきたい。自主事業については、なれた保育所であること、隔離された一つの部屋があり、専門の看護師に対応してもらえることなどから、働いている方にとってはニーズが高いと思っている。

福祉保健部長 (2) 来年度保育所、学童など、子どもに関する施設が大村市全体でどのような充足状況なのか、どこに空白があるのかなど調査をして、整備計画を立てる予定であるので、病児、病後児保育のニーズや受け皿の状態も含めて計画の中に盛り込んでいければという思いでいる。

(その他の質問事項)
・2014年長崎国体のデモスト競技に大村でパラグライダー競技の実施を